

安全・安心で豊かな岡山を目指した 岡山三川での取組み

—— 吉井川、旭川、高梁川における流域治水の推進

国土交通省 中国地方整備局
岡山河川事務所 所長 垣原 清次



1. はじめに

岡山県は温暖で晴れの日が多く、災害が少ないことから「晴れの国おかやま」と言われています。しかし、県南の大部分を占める岡山平野は、新田開発等の目的で干拓されたゼロメートル地帯と呼ばれる広大な低平地であることから、近年で最大の被害となった平成30年7月豪雨をはじめ、過去より幾度となく水害に見舞われています。

岡山河川事務所は、岡山三大河川と呼ばれる吉井川、旭川、高梁川の下流部を管理しており、地域の皆様の安全・安心を確保するために、様々な事業を

推進しています。

2. 治水事業の推進

平成30年7月豪雨から5年が経過しましたが、近年の水災害が激甚化・頻発化している状況を踏まえると、治水事業の必要性はますます高まっています。岡山河川事務所では、「防災・減災、国土強靱化の5か年加速化対策」として、岡山三川での堤防整備や耐震対策、河道掘削など、治水事業を推進しています。

吉井川では、河口部の高潮・耐震対策の完了を目指し整備を進めるとともに、岡山市街地を背後地に抱える下流

部右岸西大寺地区の堤防整備の新規着手に向け調整を進めています。

旭川では、河口部での高潮・耐震対策が令和2年度末に完了したことから、現在、下流部の堤防整備を進めています。特に、岡山市中心街や岡山城を背後地に抱える旭川右岸の内山下地区については、まちづくり、文化財及び景観にも配慮した堤防整備が求められており、関係機関と丁寧に協議を重ね、整備を進めていきます。さらに、旭川ダム、湯原ダム等の既設ダムの洪水調節機能の向上を図る対策として「旭川中上流ダム再生事業」を推進し

ており、令和2年度より実施計画調査を開始し、現在、地質調査、環境調査等を進めています。

高梁川では、小田川合流点付替え事業の本年3月の完成予定に合わせて、沿川に倉敷市街地が広がる高梁川下流部において、受け皿として必要な築堤を本年の出水期までに完了するよう堤防整備を推進しています。さらには、新合流点の上流に位置する酒津地区の河川改修、堤防強化に向けて、必要な調査・検討を行っています。

また、岡山河川事務所では、これらの河川整備や維持管理を担っていただいている技術者の皆様を対象として、工事にかかる思いや創意工夫を事務所ウェブページで紹介しています。建設現場で働く人々の誇り・やりがいの向上とともに、建設業全体の魅力向上にもつながることを期待しています。

3. 流域治水の取り組み

岡山三川では、干拓により形成された広大な低平地を抱えていることから、低平地に張り巡らされた農業用水路を活用した事前水位調整、自治体独自の条例に基づく雨水流出抑制対策、浸水リスクを考慮したまちづくりを始めとして、様々な形で流域治水対策が取り組まれています。今後とも、今年度内に策定予定の流域治水プロジェクト2.0に基づき、地域特性を活かした効果的・先導的な取り組みを推進してまいります。

さらに、吉井川水系においては、地球温暖化による気候変動の影響を予め治水計画に反映して、計画的な河川整備を進めるため、昨年7月から河川整備基本方針の見直しに着手しています。気候変動による降雨量の増加を考慮した計画へと見直すことで、治水対策の強化を行うこととしています。

また、河川の資源を活用し、地域の活性化や観光資源の魅力向上に貢献するため、かわまちづくりを推進しています。「旭川かわまちづくり」エリアでは、遊歩道などのハード整備のほか、区域指定により河川内での営利活動を可能とする施策を展開しており、この施策を活用した遊覧クルーズ船が、令和5年4月より営業運航を開始しています。「和気町かわまちづくり」エリアでは、令和4年11月に芝生のグラウンドや親水施設の整備が完了し、昨年8月には4年ぶりとなる「和文字焼きまつり」が盛大に開催されました。引き続き、自治体との協働の下、かわまちづくりを推進します。

4. おわりに

岡山河川事務所は、地域の皆様のご理解・ご協力の下、関係者と連携して岡山三川の流域治水対策を積極的に推進することで、安全・安心で豊かな岡山を目指してまいります。



和文字焼きと花火



遊覧船と岡山城



和文字焼きまつり (吉井川河川敷)



岡山さくらカーニバル (旭川河川敷)